

第 7 回 ITS シンポジウム 2008

ヒトを見据えて ～Human Oriented ITS の実現のために～

●企画セッション

ONS/1-1 企画セッション 1-1

都市 × プロブパーソン～観測革命は都市をどう変えるか？～

センシング技術の進展による観測革命は ITS のユーザーサービスだけではなく、都市再生や総合防災計画、環境モデル都市、都市文化論といった様々な都市政策に対して影響を与えようとしている。多量かつ高精度な人の行動データの計測と蓄積は ITS の技術開発のフェイズをも大きく変容させる可能性が高い。本セッションでは、多量で高精度な人の移動 - 活動履歴を計測するプロブパーソン技術の最新の研究成果を下敷きに、都市交通戦略や防災総合計画、環境モデル都市といった分野横断的なテーマに対して、こうしたプロブパーソン技術をどう援用していけるのか、都市交通政策への新展開について掘り下げて議論したい。

モデレータ:

羽藤 英二 東京大学大学院工学系研究科 准教授

講演:

朝倉 康夫 神戸大学大学院工学研究科 教授

羽藤 英二 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授



ONS/1-2 企画セッション 1-2

移動を支える通信環境の地殻変動～ ITS 通信の動向と課題～

本企画セッションでは、現在、セカンドステージにあるITSにおける、安全・安心、豊かさ・環境、快適・便利といった様々なサービスシーンの実現を下支えし、また活用の期待されているITS通信に関する最新の動向と課題について、4人の専門家による招待講演を行う。講演内容は、ITS通信全般における現状と周波数再利用も含めた動向、標準化等の国際動向、通信を利用したシステムの効果評価についての研究、さらに、本年12月から予定されている安全運転支援システムの大規模実証実験の通信技術についてなどを予定しており、多数のご参加と活発な議論を期待する。

モデレータ:

加藤 晋 産業技術総合研究所 知能システム研究部門 主任研究員

講演:

伊丹 誠 東京理科大学 基礎工学部電子応用工学科 教授

小山 敏 (株)日立製作所 トータルソリューション事業部道路システム部 担当部長

関 馨 (財)日本自動車研究所 ITS センター標準化グループ 主席研究員

徳田 清仁 沖電気工業(株) 情報システム事業グループ SS 社無線技術研究開発部 部長



ONS/2-1 企画セッション 2-1

高齢社会に求められる ITS とその課題

ITS において一般ユーザが最も期待しているのは、やはり自動運転システムであると思われる。しかし、技術的な開発状況としてはかなりそれに近いレベルに達していながら、製造物責任や瑕疵の観点から開発側にとって自動運転システムの実現には大きな壁があり、運転者が最終責任を負う形での運転支援という限定された状況であるのが現状である。

しかし超高齢社会となったわが国では、特に地域においては高齢者が車なしでは暮らせない状況が各地で存在し、さらには認知症運転者による交通事故が社会問題化している今、改めて ITS が果たすべき役割とそのあり方について、クリアすべき課題を洗い直し、問い直すことが必要ではないだろうか。本セッションでは、社会、技術、法といったそれぞれの立場からこの問題に取り組む3名の方々を迎え、高齢社会に必要とされる ITS の方向性について多角的な議論を行いたい。

モデレータ:

大口 敬 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 教授

講演:

景山 一郎 日本大学 生産工学部機械工学科 教授
山下 友信 東京大学大学院法学政治学研究科 教授
上村 直人 高知大学医学部神経精神科学教室 講師



ONS/2-2 企画セッション 2-2

ヒトと機械のシナジー～共創に向けて～

ヒト(ドライバー)と機械(車)が個性をもった1つのユニットを成し、ITS という場で、車の運転が行われる。稲垣先生には「運転支援システムを導入すると過信が生じるのではないか」といった議論に潜む落とし穴や、「ヒトに優しいシステムにすると名目のもとで機械がヒトの意向に逆らうことは許容されるか」といったテーマを取り上げ、ヒトと機械の共創を考察していただく。三宅先生には、危険に気づくためにはヒトの意識下の情報処理が必要で、ドライバーの身体感覚を拡張することが気づきの支援につながるという共創的な視点から問題提起をいただく。その後、フロアからの発言も交えて議論を深める。ヒトとクルマの関係を捉えなおす機会となればと考える。

モデレータ:

大須賀 美恵子 大阪工業大学工学部生体医工学科 教授

講演:

稲垣 敏之 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授
三宅 美博 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 教授



ONS/2-3 企画セッション 2-3

ITS 時代の人材像～ 教育とビジネスの場から ～

昨年度 ITS シンポジウムの特別セッション「論戦～企業が学に言いたいこと・学が企業に言いたいこと～」では、現在の ITS 業界において技術者に求められる資質として、「システムインテグレーション技術」「異分野間の相互理解力」「長期的視座での構想力」「市場開拓能力」等々の必要性が指摘された。本企画セッションでは、これに続く位置づけとして、ITS 時代に活躍する人材像を、人材育成の入口と出口から議論してみたい。まず、入口側として、教育・アカデミズムの場からのパネリストに登壇してもら

い、今後 ITS 分野で活躍する技術者を輩出する立場での、最近の取り組みについて議論していただく。また、出口側では、実務分野からのパネリストに、民間主体で IT・ITS 技術を活用した情報サービスを企画、実現(インテグレーション)した経験を通して、ビジネスの場で有用であった技術・知識等への知見を紹介していただく。

モデレータ:

堀口 良太 (株)アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役

パネリスト:

川嶋 弘尚 慶應義塾大学大学院理工学研究科 教授

藤井 聡 東京工業大学大学院 理工学研究科 教授

赤崎 まき子 (株)エイ・ワークス 代表取締役

柳瀬 眞 (株)博報堂メディアソリューション推進局ビジネスディベロップメント ディレクター



●対話セッション(ポスターセッション)

92 編の論文が以下の 8 つの対話セッションで発表されました。

DLS/1-A 「ヒトと誘導に関する新技術と施策」

DLS/1-B 「 ITS のための検知・検出技術」

DLS/1-C 「安全運転と車両運動制御」

DLS/1-D 「通信・車両などの新技術開発と応用」

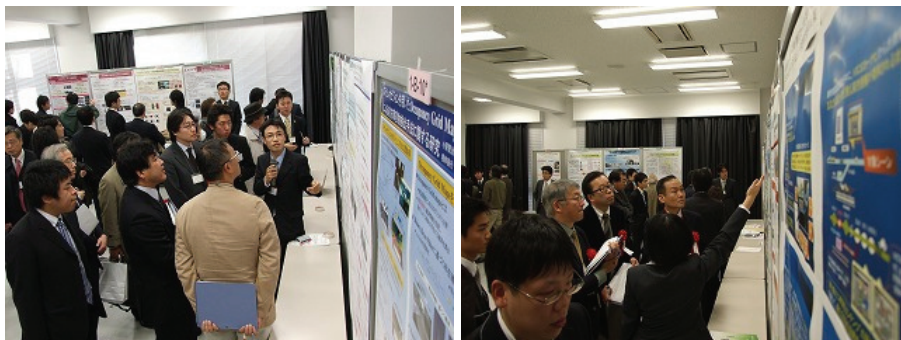
DLS/2-A 「交通流の計測と管理」

DLS/2-B 「交通・ドライバー・車両の計測と制御」

DLS/2-C 「交通安全の要素技術と施策評価」

DLS/2-D 「交通と ITS の新しい技術施策と評価」

<セッション会場の模様>



ベストポスター賞

審査委員会による審査の結果、以下の 8 名の方々がベストポスター賞に選ばれました。

●技術部門

1-B-10*

ステレオビジョンを用いた Occupancy Grid Maps による前方障害物検出手法に関する研究
小原賢治・金沢大学

1-D-05

DSRC-ETC の適用フィールドの拡大に向けた調査検討
岡村幸壽・中電技術コンサルタント(株)

2-A-06

DSRC プローブデータの活用に関する実証的検討
八重柏陽介・国土交通省国土技術政策総合研究所

2-B-11

首都高埼玉大宮線 オプティカルドット ～生態心理学的アプローチによるシークエンスデザイン～
韓垂由美・東京大学

●**学術部門**

1-A-02*

カメラネットワークによる広域的な複数人物追跡
兵動靖英、東京大学

1-C-10

最大伝達可能トルクの推定による電気自動車の新しい空転防止制御
殷徳軍・東京大学

2-C-04*

ドライビングシミュレータによるエコドライブ走行の燃料消費率低減効果に関する定量評価
平岡敏洋・京都大学

2-D-04

“渋滞”と“混雑”を解消するメカニズムのデザイン
和田健太郎・東北大学

<表彰式にて>



ベストポスター賞は以下の皆様に審査いただきました。

●審査委員長

大口 敬（首都大学東京）

●審査委員

長谷川孝明（埼玉大学）

赤羽弘和（千葉工業大学）

大須賀美恵子（大阪工業大学）

石太郎（早稲田大学）

羽藤英二（東京大学）

山本俊行（名古屋大学）

鈴木高宏（東京大学）

大前学（慶應大学）

川崎洋（埼玉大学）

牧村和彦（計量計画研究所）

山内照夫（AHS 研究組合）

秋月俊五（本田技研工業）

本多建（長大）

加世山秀樹（本田技術研究所）

堀口良太（アイ・トランスポート・ラボ）

熊澤宏之（三菱電機）

織田利彦（パナソニック）

尾崎信之（東芝）

大江秀和（トヨタ自動車）

<審査風景>



以上